

会議録

| | |
|--|--|
| 会議の名称 | 令和3年度第4回西東京市総合計画策定審議会 |
| 開催日時 | 令和4年2月21日（月曜日）午後1時30分から3時45まで |
| 開催場所 | 西東京市役所田無庁舎3階庁議室 |
| 出席者 | 市川武志委員、伊藤一雄委員（副会長）、伊藤泰彦委員（会長）、河野美晴委員、小松真弓委員、佐久間雄一委員、佐々木亮翔委員、篠原京子委員、土井隆司委員、中島伸委員、中嶋亮太委員、松川紀代美委員（50音順） 事務局：保谷企画部長、栗田企画部参与兼企画政策課長、近藤企画政策課課長補佐、鹿森企画政策課主査、里企画政策課主査、浅水企画政策課主任、小倉企画政策課主任、鎌田企画政策課主事 |
| 議題 | 議題1 開会 議題2 諮問事項に対する協議検討 （1）市民意識調査について （2）総合計画策定のための基本方針について （3）市民参加について 議題3 その他 |
| 会議資料の名称 | 資料1 西東京市市民意識調査報告書（抜粋） 資料2 西東京市第3次総合計画策定のための基本方針（案） 資料3 令和4年度に実施する市民参加について |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録 |
| 会議内容 | |
| <p><u>議題1 開会</u> 会長より開会の挨拶 ○会 長： 傍聴要領に基づき、傍聴人の入室を認める。（傍聴人入室）</p> <p><u>議題2 諮問事項に対する協議検討</u> <u>（1）市民意識調査について</u> 事務局より資料1に沿って説明</p> <p>○会 長： 事務局から説明のあった内容について、質問、意見等はあるか。</p> <p>○委 員： 圏域別の分析を行っているが、協働コミュニティ課が所管している地域協力ネットワークや日常生活圏域と圏域の捉え方は同じであるか。</p> <p>○事務局： 同じ圏域の考え方で分析を行っている。</p> | |

○委員：

8ページの「まちづくり」と「市民参加」について、「まちづくり」とはどのようなものを指しているのか。

○事務局：

調査票では設問を「市民参加」「まちづくり」等でカテゴリー分けをしており、市民に回答してもらっている。「まちづくり」は道路や景観、公園、防災等、都市計画・都市基盤に関する施策の設問となっている。

○会長：

「まちづくり」という言葉を地域でのコミュニティを含めた包括的な意味合いで使用することもあるため、総合計画を策定する上で、行政の中での慣習に囚われすぎず、一般の方にわかりやすい表現にしていけたらよい。

○委員：

8・9ページの「市民参加」について、回答した方の属性など詳細について分析することが、今後の基本方針・基本計画を立てる上で、重要となってくると感じた。

○委員：

8ページは分野別に項目が整理されているが、例えばD：維持分野に「市民参加」、C：重点維持分野に「行政運営」という結果を見ると、この項目とこの評価の位置づけだけでは見えてこない部分もあると思うため、もう少し詳細な分析をしていくとより具体的な課題等が見えてくるのではないか。

データの見せ方と今後の計画策定の方針はリンクしていくと思うため、記述や表記を整理していくとよいと感じた。

(2) 総合計画策定のための基本方針について

事務局より資料2に沿って説明

○会長：

事務局から説明のあった内容について、質問、意見等はあるか。

○委員：

4ページの項目⑤の3つ目について、田無警察署管内は特殊詐欺の被害が多発している地域であるため、「安心して暮らすことができる住環境を整える」という記述には防犯といった意味合いが含まれていることを共有しておきたい。

○会長：

「安心・安全に暮らすことができる～」という表現に変えると、安全が当たり前ではないという意味合いも伝わるのではないか。

○委員：

今回の計画は10年後を見据えたものであるため、SDGsの達成だけでなくSDGsの達成後

に向けたという表現にしてはどうか。

また、「3. 計画策定にあたっての基本的な考え方」について、多くの市民に訴えかけていくため、キーフレーズをひらがなで表現するのはどうか。

例えば、項目①地域への「誇りや愛着」を育むについては「だから」、②は「らしく」、③「つながる」、④「いきがい」、⑤「たくましさ」、⑥「そのあと」等、項目の前にキーワードとなるひらがなをつけることで、市民に訴えかけられるものとなるのではないか。

○会 長：

市民へメッセージ性のあるものとなり、とてもよいアイデアであると感じた。名詞で整理していくと、①だから、②らしさ、③つながり、④いきがい、⑤たくましさ、⑥そのあととなっていく。

○委 員：

「②らしさ」の中で、「性別や障害の有無などに関わらず」という表記だけがある点が気になる。例えば外国に由来のある子どもたちのことも考える必要があるのではないか。

○委 員：

この件について具体例を挙げていく必要があるのか。「など」で表記する形や、シンプルに「一人ひとりが認められる大事にされる」という表記だけでも良いと感じた。

○会 長：

基本方針については、必ずしも具体例を出さなくともよい。今回は、議論をしてきて課題が見えているものは、可能な限り入れていきたいと考えている。

○委 員：

多様性の議論では、何か具体的な属性を入れると必ず取りこぼすことになる。多様性が重要であるというメッセージを伝えるためには、属性を挙げるのではなく、「一人ひとりが」というと表記に限定するか、「誰でも」、「誰もが」という言葉に続き、「一人ひとりが認められ大事にされる」という表記でよいのではないか。

○委 員：

誰かがこぼれてしまうという理由から、属性を入れずに「誰もが」という言葉でひとくくりにすると、「多様性」に関心のない人たちが問題点として気づくか疑問に思う。問題意識の高い人だけではないので、少し属性を入れるという考えもあるのではないか。誰に見てもらおうのかを意識する必要がある。

○委 員：

SDGsの中には、例えばジェンダーの問題も入っている。この文章の冒頭にSDGsに基づきという言葉を入れると読み手としても理解が深まるのではないか。

○委員：

不登校の子や精神疾患の人など、色々な人を含めた表記と考えると、属性は記載せず「誰もが一人ひとり」と言ってもらったほうが良いと思った。

○会長：

各委員の発言を踏まえ、1番目は、「一人ひとりが認められ大事にされる」ではなく、SDGsが象徴するように、社会では経済、ジェンダー、障害の問題が注目されていて、目を向ける必要性があるという姿勢の話を書く。2番目に、「誰もが一人ひとり認められ大事にされる」が入り、3番目に「多様性が尊重され受け入れられる社会を作る」という表現が入る。このような3段階にすることで、具体的な課題として共有しながら表現できないか。

○委員：

多様性の問題は、一番声が届かない弱者、マイノリティの人たち、私たちの想像が及ばないところで疎外感を得ている人たちにまず届くメッセージとして態度を示す必要があると考える。また、サイレントマジョリティといわれる層に対しては、別の方法や表現でメッセージを出さないと届かないのではないか。

○会長：

様々な意見をいただいたが、②については先ほど私が述べた3点を記載する方向で修正したい。

○委員：

項目③「つながり」について、文書で見ると「つながる」ことすべてがいいことであり、つながりありきになっているように見えてしまうが、福祉の現場の感覚としては、つながりを求めている方もいるため、つながりという言葉は慎重に使うこともある。また見守りという言葉について、受け取る人によっては監視されていると感じる方もいる。

○会長：

一つのパイプだけでなく、多くのチャンネルを持つことも大切であるが、必要な人に必要なサービスや人がつながることが重要であると感じた。一対一対のつながりだけでなく、必要な人を受け止める多様な場があるという意味を込め、「様々な立場の人を受け止め」といった表現にしてはどうか。

○委員：

項目⑤については自然災害や感染症に対して柔軟に対応し、備えていくため、「そなえ」というキーワードが良いと思う。

○会長：

項目⑤については「そなえ」を候補とする。

○委員：

項目⑥のキーワードについて「そのあと」という表現の「その」をしっかりと説明でき

るようにしておきたい。

○委員：

項目⑥は文章中の表現に未来という言葉が使われており、次世代を意識し「みらい」としたらどうか。

○会長：

項目⑥については「みらい」を候補とする。

○委員：

5ページの「市民参加についての基本的な考え方」というタイトルについて、市民参加ありきのように捉えられる表現に感じるため、計画策定のプロセスの一環として市民参加を組み入れているという意味合いを込め、「総合計画における市民参加の重要性」としてはどうか。

○会長：

タイトルについては「総合計画における市民参加の重要性」とする。

(3) 市民参加について

事務局より資料3に沿って説明

○会長：

事務局から説明のあった内容について、質問、意見等はあるか。

○委員：

テーマを設定して実施する際には、市民に参加してもらうだけでなく、テーマ毎にそのテーマを所管する市の部署の方にワークショップに参加してもらうことで、より詳しいことを知っている人がいる中で実施することができ、より効果的なワークショップとなると思う。

○委員：

市内の大学等に協力してもらい、次世代を担う高校生・大学生に参加してもらうことでより実効性のある意見や議論ができるのではないか。

○委員：

可能であれば市内の学校の新聞部や放送部などに協力してもらい、学生が実際に大人にインタビューするのはどうか。大人と学生が互いに関わっていくことでお互いに学んだり、気づきが生まれ、より有益になると思う。

○会長：

前半にキックオフでシンポジウムを行うことになっているが、市民ワークショップを先に行い、その成果の場として後半期にシンポジウムを実施するのもよいのではないか。プログラムについては今後も検討を重ねていきたい。

○委員：

市民参加についてどの手法でもテーマを絞って実施することになると思うが、市民意識調査等、市民の意見等を踏まえてそのテーマを選定していった方がよい。また、市民参加については、市民に対し市民参加の重要性を説明するなどし、市民参加の盛り上げや市民参加の価値を知ってもらうなどの仕掛けがあった方がよいと感じた。

○委員：

田無駅の構内にラジオ局のブースがあるが、行政も市内事業者も市内をもっとよくするという共通の目標があるため、様々なメディアと協力していくことも有意義であると思う。

○委員：

市民参加の内容も重要であるが、多くの方に参加いただくことも重要である。たくさんの方の意見をもらうためには、たくさんの方に参加してもらうことが必要となるため、ネットワーキングについても工夫し、一般の方が参加しやすいものにしていけたらよい。

○委員：

基本計画は10年を計画期間とし、その期間中には中間見直しや進捗状況の確認などを行うことになっているが、現代は環境の変化が速いため、途中で計画の見直しを行えるような柔軟な計画として考えていけたらよい。

議題3 その他

○会長：

事務局から何かあるか。

○事務局：

次回は、令和4年度4月に実施を予定している。詳細については改めて通知する。

○会長：

第4回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

(閉会)